

カトリック 仙台教区報

2008年5月4日 No.181

発行

カトリック仙台司教区

〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12

Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378

発行責任 広報委員会

URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

「ペトロ岐部と187殉教者列福式」に寄せて

司教総代理 佐藤 守也

いよいよ今年の列福式に向けて参加者の募集が始まっていきます。我が仙台教区でも多くの参列者があることを期待されています。この機会に信仰を証しするというこの意味を考えることにしたいと思います。今回、一挙に188名が福者になりますが、司祭4名、修道者7名を除けば他は一般信徒、年齢構成も分かっているのですが、1歳の子2名、2歳の子2名も含めて、10歳未満の子は22名を数えます。どんなにか処刑は陰惨を極めたことでしょう。

ところで、今日カトリックの信徒といえどもキリシタン時代の殉教史に関心を持っている人はそう多くはないと思います。では、教会が殉教者を顕彰することにはどんな意味があるのでしょうか。

私は、何より自分に足りないことを自覚し、一体どんな信仰教育があつてかくも英雄的な信仰者になったのかという点に興味がある

あります。第二ヴァチカン公会議前後に司祭になるべく養成を受



仙台教区司祭団とミサ奉仕者（聖香油ミサ）2008・3・19

けた私は教会史はならいでしたが、殉教には関心が薄かった。当時の関心は専らイエスは信ずべき神の子キリストであるかとい

う聖書の理解に集中していました。そう信じて生きた人々の信仰の姿に見習うことはありませんでした。理解できれば信仰者になれると思っていた。パウロの書簡に「ユダヤ人はしるしを求め、ギリシア人は知恵を探します」

（1コリント1・22）とありますが、宣教師であるパウロは生きた信仰者に育てべく苦労したでしょうが、「しるし」を見せることは出来ませんでしたし、知恵を求めるギリシア人に復活のキリストを伝える言葉も持っていないませんでした。パウロはよく「キリストのために」愚か者となった（1コリント4・10）とか「自分自身については弱さ以外に誇るつもりはない」（2コリント12・5）のように「愚かさ」と「弱さ」によって信仰を自分の身に引き受けて生きることを通して伝えたのではないのでしょうか。17世紀の日本にこんな信仰者がいた、そして21世紀で証しするとはこういうことだと思ふ。

塩と光

五千人にパンを分けてくださったのは、イエスが「いのちのパン」（ヨハネ6・35）であることを、悟らせるためでした。実は、すでにモーセの時代に、主なる神は荒野で、民をマナで養ってくださいました▼口で食べるマナだけではなく民にとって必要だったのは、神のみことばでした。「人はパンだけで生きるのではなく、人は主の口から出るすべてのことばによつて生きる」（申命記8・3b）。つまり、信仰を生きたための霊的糧は、みことばなのです▼イエスは、言われます。「わたしのことを聞いて、わたしをお遣わしになった方を信じる者は、永遠のいのちを得、また、裁かれることなく、死からのちへと移っている」（ヨハネ5・24）と▼エルサレムからエマオへ逃亡しようとしていたクレオパともう一人の弟子が、復活のイエスだと気づくためには、イエスから聖書全体にわたって説明される必要がありました。わたしたちも、生涯かけて聖書全体を分かち合うことが肝心です。みことばは、典礼の源泉ですから、それらを深く味わうことは、典礼に豊かに参加するためにとても大切です。

(博)

仙台教区宣教司牧評議会から

「教区活性化研修会」の反省と今後について

仙台教区宣教司牧評議会は、2008年3月20日(木)10時～14時までカトリック仙台司教区センター2階会議室で開催された。

出席者は、平賀司教、佐藤守也司教総代理、梅津明生教区会計、(青森)小松史朗師、里村智彦氏、砂田昭子氏、(岩手)田中丈夫師、玉熊伸子氏、飯塚豊氏、(宮城)小野寺洋一師、岡田耕一氏、(欠席)山田務氏、(福島)板垣勤師、金子力氏、吉田和則氏、(修女連)Sr.小針千代聖ウルスラ会、Sr.青木節子(女子パウロ会)、(司教直任)アントニオ・クビヤス氏(ラサール会)の17人。

開会の祈りの後、平賀司教は、「宣教司牧評議会規則 第2条にあるように『活きたキリストの証人となりうるように』と教区活性化のための研修会を6回行ってきました。この実績を踏まえて今後この研修会をどのようにしていけばよいのか、さらに喜んでこの信仰を生きる共同体となるために何をすればよいのか討議していただきたい」と挨拶した。

(1)教区活性化のための研修会についての各県からの報告

青森県―会場を二つ(八戸塩町・浪打)設けたことで参加者が合わせて110名と増えたのは成功だった。岩手県―四ツ家教会で県の研修会と併せて開催、180名位の参加。

宮城県―元寺小路教会で128名の参加、事前に分科会

司会者が打ち合わせていたこともあって有効な話し合いが出来た。

福島県―参加者は80名位、分科会での分かち合いでは、教会の規模によって事情かなり違うのでお互いに連絡しあうことが大切だ。修女連―各教会の中でもお互いの話し合いがあればよいと思う。

司祭―司祭の参加者が少ない。司祭の意識の違いが参加者に影響する(青森)。各教会に戻ってからの報告があればよい(岩手)。

グループの司会者が全て男性だったこと、青年層をどう取り込んでいくか課題があると思う(宮城)。参加者が固定化してきた。司会する人を育てなければならぬ。活性化研修会というネーミングを変えてはどうか(福島)。



研修会で講演する平賀司教

(2)今後の「教区活性化のための研修会」のあり方について。

「伝達講習のできる研修であればよい」「研修のあり方を見直す必要がある」等の意見が聞かれる。研修会の今後のあり方についての意見・提案を出し合い、方向性を決定したい。

活性化研修会を受けての討議が行なわれ、

・参加者が小教区に持ち帰れるようなものにした。・小教区で今困っている事に対する答えが欲しい。・もっと具体的なものをとの要望がある。・抽象的で活性化のために何が大事かが迫ってこない、などの意見があつた。

宣教の視点からは、洗礼を受けた人へのフォロー、子ども達の信仰教育を考えると、司祭減少という事実を認識しなければならぬ。キリシタン時代信徒の共同体が十分に機能していたことを思うと、今、司祭中心の教会共同体のあり方から神さまに奉仕する共同体に変わる時期にきていると言える。

研修会を続けるか否かについては、一国一城の主であるという司祭の意識をどうするかが研修会を実りあるものにする鍵になる。

最後に教区活性化のための研修会の継続をとの意見が過半数を占めた。これを受けて、今後、役員会で検討していくこととした。

(3)連絡・報告

人権委員会(園部氏)からハンセン病に関するシンポジウム、ヘルプデスクについて。

広報委員会(岩井氏)から列福式の参加者申込について。

(4)2008年度各県大会の予定

青森県 9月7日 「県の集い」

青森明の星学園にて。

岩手県 10月19日「県大会」盛岡白百合学園にて。

宮城県 7月6日「県大会」テーマ「信仰の原点を見つめよう」

福島県 9月15日「県カトリックの集い」桜の聖母マリアン・ホールにて。

(5)その他

7月13日 修女連研修会 仙台白百合学園(紫山)にて

テーマ「188殉教者と現代の教会の使命」講師 古巣 馨師

・元寺小路教会の手話サークルから、各県の大会の際に要望があれば、手話通訳の手伝いをします。

・平和旬間のミサ式次第は佐々木博師が中心になって作成する。

・WYD日本版が、8月14～17日山中湖で開催、多くの若者の参加を促したい。

・福島県 須賀川教会献堂50周年 5月18日。

なお、同評議会規則3条で、信徒は、同評議会に対し提言、意見具申が出来る事になっているので、委員を通して提案して下さい。

2008年度 教区司祭団の役割分担

教区本部

司教 平賀徹夫・司教総代理 佐藤守也・事務局長 小松史朗・会計 梅津明生

司祭評議会

◎平賀徹夫・佐藤守也・小松史朗・梅津明生・首藤正義・氏家和仁・田中丈夫・渡辺彰宏・板垣勤・エメラルディック・トマス・パヴェレッツ

宣教司牧評議会

◎平賀徹夫・佐藤守也・小松史朗・

梅津明生・田中丈夫・小野寺洋一・板垣勤

青少年担当 舟山亨・ダヴィデウリベ

司祭召命活動

◎佐藤守也・小松史朗・氏家和仁・会津隆司

神学生養成 氏家和仁・会津隆司 人権を考える委員会 土井勝吾

教区司祭団役員会 ◎佐藤守也・小松史朗・梅津明生・氏家和仁・会津隆司・小野寺洋一

財政問題評議会 ◎平賀徹夫・佐藤守也・小松史朗・梅津明生

施設整備協力制度 ◎佐藤守也・小松史朗・梅津明生 教区広報 佐々木博

センター管理運営 ◎佐藤守也・小松史朗・梅津明生 中央協関係 他

(典礼委員会) 首藤正義 (難民移住移動者) 佐藤修

(カリタスジャパン) 田中丈夫 (カトリック障害者連盟) 土井勝吾

学校法人東北カトリック学園 理事長 佐藤守也・常任理事 会津隆司・理事 渡辺彰宏・評議員 梅津明生・佐藤修・小野寺洋一

社会福祉法人カトリック児童福祉会 理事長 梅津明生・評議員 鷹皆達衛・監事 渡辺彰宏

財団法人光ヶ丘スベルマン病院 理事長 鷹皆達衛・理事 土井勝吾

司教外国語秘書 村首ステファノ

司教神学顧問 佐々木博

司祭の家管理者 鷹皆達衛



世界青年の日・国内版への参加者募集

司教 マルチノ 平賀 徹夫

今年7月15日から20日にかけて、オーストラリアのシドニーで「世界青年の日 (WYD=ワールド・ユース・デー)」が開かれることになっていますが、この時期は学生にとってあまり都合のよい時とは言えないでしょう。そこで以前にも行われていたように今年も、学生にも社会人にも参加が容易な時期に国内版のWYDが企画されており、以下の要領で参加者募集中です。

日程：8月14日(木)～17日(日)

会場：山梨県南都留郡山中、星美ホーム山中林間寮

参加資格：18歳(高校生を除く)～35歳の青年男女、国籍不問

定員：200名

募集期間：2008年6月30日まで(定員になり次第締切)

すでに各小教区には日本語・英語・ポルトガル語などでの募集案内のポスターや申込用紙などが届いているはずですが、もしない場合には教区本部事務局にお問い合わせ下さい。参加費用は一人1万8000円の予定です。仙台教区からの参加者にはいくらか補助することを考えています。

小教区内に青年が少ない、あるいはいないという声がたいいのところから聞こえてくる状況かもしれませんが、青年本人も周りもできるだけがんばって何人でも送り出し、全国からの青年たちと祈り、語り、活動するなどして、共に信仰に燃える体験ができたらしばらしいです。そして、それはその後の生き方への大きなエネルギーとなるにちがいありません。

この国内版WYDの担当責任者は溝部脩司教様で、わたくしも参加してカテケージスのお話をすることになっています。是非、ふるって応募して下さい。



大分教区の司教が一日も早く決まるよう祈ります。

福岡教区司教に宮原司教を任命
教皇ベネディクト16世は、福岡教区の第6代司教として大分教区の宮原良治司教(52)の写真を任命することを3月19日発表した。着座式は、5月18日(日)午後2時から福岡国際センターで行なわれる。

「若い世代に信仰を伝える」 家庭の信仰教育のすすめ(Ⅳ)

司教神学顧問 佐々木 博

親子が一緒に祈る

先日、若い母親が、お別れの挨拶に見えたとき、報告してくれました。「わたしは生活の中で祈ることを殆どしませんでした。子どもが教会で祈りを覚えて来て家でも祈るようになったので、お陰でわたしも子どもと一緒に祈るようになりました」と。家庭での信仰教育の基本は、まず親子が共に祈ることです。パウロは勧めてくれます。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです」(テサロニケ一5・16・18)と。とにかく、日々の生活の中に、親子が一緒に祈るひと時をしっかりと組み入れることです。

では、どのように何を祈ったらいいのでしょうか。まず、確認すべきことですが、わたしたちは聖霊の助けのもとで祈るのです。ですから、祈りは神との対話ですから、神に語りかけるだけではなく、「神に聴く」ことが肝心です。ですから、神に聴くときは、自然に沈黙の祈りになります。つまり、心の耳で神の語りかけを、静かに聴き取ることなのです。かつて、サムエル少年が信仰心を芽生えさせたときの体験が、次のように報告されています。「主は三度サムエルを呼ばれた。サムエルは起きてエリのもとに行き、『お呼びになったので参りました』と言った。エリは、少年を呼ばれたのは主であるかと悟り、サムエルに言った。『戻って寝なさい。もしかた呼びかけられたら、主よ、お話しください。』



さい。しもべは聞いております」と言いなさい。』と(サムエル上3・8・9)。

この、「神に聴く」ことこそは、信仰の原点なのです。「イザヤは『主よ、だれがわたしたちから聞いたことを信じましたか』と言っています。実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストのことばを聞くことによって始まるのです」(ロマ10・16b・17)。ですから、神に話しかけること以上に、大切なのは「神に聴く」ことです。それは、黙想となっていく深い信仰体験になります。

司教日程

5・6月

- 5・10 ① 仙台教区修道女連盟
- 11 ② 聖霊降臨祭
- 12 ③ 人権を考える委員会
- 13 ④ 司教評議会
- 16 ⑤ 神学院司教委員会
- 16 ⑥ 青年黙想会(仙台)
- 17 ⑦ 宣教師牧評役員会
- 18 ⑧ 福岡教区宮原司教着座式
- 20 ⑨ 日力連仙台総会
- 22 ⑩ 社会司教委員会
- 25 ⑪ 部落問題緊急定例会
- 26 ⑫ 教区司祭団月例会
- 26 ⑬ 米川三経塚殉教祭
- 2 ⑭ 定例司教総会
- 9 ⑮ 部落問題緊急事務局会議
- 9 ⑯ 人権を考える委員会
- 10 ⑰ 司教評議会・司祭団役員会
- 14 ⑱ 部落問題緊急シンポジウム
- 29 ⑲ 聖ペトロ聖パウロ使徒
- 30 ⑳ 教区司祭団月例会

殉教者に学ぶ②



元寺小路教会

延沢 恒夫

さて、188

殉教者のうち

53 殉教者は、東北地方で唯一の米沢で殉教した人びとである。

私は、公務上勤務の必要から米沢市に約10年間生活した。その間に殉教に関する上杉藩古文書や、先達の貴重な殉教者の研究文献等に接する機会に恵まれた。そこでこれらの資料から米沢の殉教者はどのような家族で、どのような社会情勢のもとで信仰生活を貫き殉教したのか、更に、今日私たちは、これら殉教者の姿から何を学ぶべきかを考えてみたい。

殉教は、1629年1月12日（寛永五年十二月十八日）上杉藩三代藩主定勝（さだかつ）の時代、幕府は徳川三代將軍家光の代である。上杉藩重臣甘糟右衛門信綱（あまかすうえもん）のぶつなをはじめ藩士族とその家族53名が、藩刑場北山原（ほくさんばら）ほか二ヶ所において、キリスト教の教えを忠実に守り、喜びをもって身を神に捧げ、厳冬の真白な雪原を斬首により聖なる血潮で染めて殉教したのである。

家族数は10家族で、うち北山原における殉教者は43名、米沢市郊外糠山（ぬかやま）での殉教は7名、同じく花沢（はなざわ）での殉教者は3名であった。男子30名、婦女子23名、そのうち5歳以下の幼児がなんと9名も含まれていたのである。

史実によれば米沢の殉教者は、いささかも逃げかくれすることなく堂々とキリシタンであることとを藩主に宣言し、信仰を守り続けたというただその理由のために死刑の宣告を受け、家族一同熱心に祈り、苦行をし、励ましあい、信仰を誇りにして喜びをもって殉教の準備をしたと記録されている。

主たる指導者であったルイス甘糟右衛門（以下右衛門という）は上杉藩の重臣であり、藩主の側用人（そばようにん）として藩主から絶大な信頼を得て立派にその職責を果たしており、藩主と共に江戸に滞在中1610年から1613年の間にルイス・ソテロ神父から洗礼を受けたといわれている。霊名は霊父にちなんでルイスであった。

当時の米沢の社会情勢を見るに、上杉藩では三代藩主定勝の時代となっており、二代景勝（かかげかつ）は幕府に対する権勢があ

り、自藩には一人もキリシタンはいないと報告を続けていたのである。1623年（元和九年）景勝が没し、その後定勝が三代藩主にわずか20歳にして襲封（しゅうほう）領地を受け継ぐことしたため幕府に対する力なく、ただ幕府の方針に従うのみであった。初代上杉謙信は、越後では二百萬石の大大名であったが1598年（慶長三年）当時二代景勝は、秀吉の命により百二十萬石に減封され、会津若松に移封となり、しかも家臣全員召し連れるようにと命ぜられ、その家族共で約6千人の家族団を連れてのことであった。更に1601年（慶長六年）景勝は関

が原の戦いで石田三成方に列したため家康の怒りをかい、米沢三十萬石に転封を命ぜられ、大家臣団と共に米沢に移住したのであった。越後の禄高から見て約7分の1に減封され、一方大家族団を連れての米沢入部であったので、藩財政は極度に苦しく、家臣の生活苦は筆舌に尽くしがたいものであった。当時城近くに居住を命ぜられていたのは上級武士のみで、他の下級武士のほとんどは郊外原野地（現在の南原地区）に居住し、日常は半士半農の姿で開拓事業と農

耕に従事し、もっぱら食糧生産に励んだと言われ、今も南原（みなみはら）地区には武家屋敷郡が点在している。城近くの武士を「城方」と言い、原野組を「原方」と呼び合い、城方は原方に對し汗を流しもっぱら食糧供給をしてくれる労苦の姿を見て感謝の念を強くし、城方は毎食ほとんど粥食で我慢する生活であったと言われている。農民の労苦にちなんだ民謡「山形初摺り歌（もみすりうた）」岩波文庫日本民謡集86頁の歌詞の一節に「お米一粒も粗末にするな、十八度（はちじゅうやたび）の手がかかる」とあり、米沢地方で労

働唄として今も歌い続けられているのである。春早く苗床づくりから始め、種蒔き、田植え、除草と続き、実りの秋の刈り取りと、厳しい農作業を重ねてはじめておいしいご飯が食卓に供される。その農民の苦勞を思いやり感謝し、いのちの糧として食するものであるから、米一粒も粗末にしてはいけなさと論しているものである。このように当時の米沢地方では、互いに思いやる心、感謝する心、協力し合う家族愛が強まり、生活苦を乗り越える力が芽生えたものと思われる。（つづく）

～列福式を告げる垂れ幕を掲げよう～

長崎の列福式実行委員会では、2月7日列福式のロゴと標語を発表したが、列福式の開催を知らせ、列福式の意識高揚のため、垂れ幕（パンナ）を作成した。同委員会では、各地の教会や修道院、学校にこの垂れ幕を掲げるよう協力を求めている。

3種の標語が書かれたパンナは各1枚（送料別）
大（145×500㌢）6万円・中（88×300㌢）3万円
小（65×220㌢）2万円となっている。

注文はFAX 095-841-77145 同委員会へ。
発注後1～2週間で届く予定。



列福式ロゴマーク
デザイン
馬場かおりさん



西仙台教会設立100年を祝う

コ会により
角五郎丁(今

仙台市青葉区国見にある西仙台教会は、3月15日(土)教会設立100周年を祝った。

感謝ミサは、平賀司教主司式のもと仙台中央地区担当司祭など5名の司祭による共同司式で行なわれ、仙台中央地区各教会の代表や同教会にゆかりのある信徒などを含め150名ほどが参加した。また午後からは、会場を東急ホテルに移して祝賀会が開催され約100名が参加した。

同教会は、1908年ドミニ



のドミニコ学院敷地内)に聖堂が建てられ、8月2日に献堂式が行なわれ角五郎丁教会と呼ばれた「スケッチ鷹賢達衛師」。

1931年からは北五十人町教会と名称が変更されたが、1966年現在地に移転、4月17日献堂式が行なわれ、西仙台教会と改称し現在に至っている。

設立100周年記念事業を振り返って

教会委員長 上野 隆

設立100周年のことが、私達の教会で最初に話題にのぼったのは、2000年のミレニアムの年でした。古参の信徒のあいだで、いったいいつが100年目のだろうか?という話になりました。鈴木和義氏の調査により、洗礼台帳の第1号が書かれた日が1908年4月19日であることがわかりました。その後、同氏を中心として、西仙台教会の歴史資料の収集が始まりました。しかしまだ8年先

にひかれ、ラジオから流れる賛美歌に心を潤わされていた。

同じ職場に仕事熱心で評判のいい人たちの中にクリスチャンの人がいて、色々と教会の話聞き、案内された先が木ノ下の聖ウルスラ会で、若い人たちに人気のあった一人

招きにこたえて

(18)

の修道女に紹介された。黒衣の気高い姿に驚き、温かい応対に感激、いつかこのような人になりたいと憧れの思いは心一杯に広がった。

その後教会に導かれ受洗、仕事や人への愛着、家族の反



神のはからいは限りなく
聖ウルスラ修道会 Sr. 瀬戸のぶ

光陰矢のごとし。神の招きとは露知らず、憧れで入信し、早50有余年、一昔前の年月がつい昨日のように甦る。

当時20代前半の私は、旧電電公社に勤務し、終戦後で精神的に枯渇していた。

そのころ通勤途上の道筋に額縁店があり、大きな額の中に「善き牧者のイエス」の絵やラファエロの「聖母子」の絵が飾られ、宗教には無知だったが、慈愛に満ちた眼差し

のことであるので、全体の作業にはなりえず、もっぱら個人の犠牲的労働によってのみ作業が続けられました。おりから西仙台教会にも高齢化の波が押し寄せ、だんだんと教会

◇春の後藤寿庵大祈願祭◇

5月25日(日)午前10:00～
奥州市水沢区福原 寿庵廟前

◇「平賀司教と語る青年のタベと

列福記念ロウソクリレーミサ」◇

日時:5月16日(金)20時～17日(土)12時
(ミサは17日午前)

場所:ラサール修道院(東仙台)

参加費:宿泊3,000円、日帰り1,500円

問い合わせ・申込み:一本杉教会 御供(みとも) 電話070-5620-7018 まで。

締め切り:宿泊希望の方は5月14日(水)まで

◇きくちゆみさん講演会◇

～9.11から始まる私の平和活動～

日時:8月2日(土)

カトリック元寺小路教会

参加費:500円 主催:仙台正義と平和協議会



設立100周年感謝のミサ

対など紆余曲折を経ても修道院への招きは消えず、道は拓かれウルスラ会に入会。前に出会ったあこがれた修道女は、修練長となっていて、厳しく温かく修練を受け、招かれた神に一生を奉獻する恵みをいただいた。

神の限らないはからいに日々生かされて幾星霜、人生の夕暮れに差ししかかっている今、大自然の創造の美を賛美しつつ、姉妹たちと共に祈り、支え合い、分かち合いながら全てを神のみ手にゆだね、過ぎさせていたただいている。

感謝!



に触れることができました。当時からいる人々にとっては、若くまだ力があつた頃の自分達の再発見であつたでしょうし、当時を知らない人にとつては今とは比べ物にならない元気の教会の姿に触れ、勇気づけられました。この感動を西仙台教会信徒のすべてで分かち合おうということで、100周年の記念事業委員会が立ち上げられ、記念事業として、記念ミサ、祝賀会、百年史の出版の三つが2007年の教会総会で確認されました。その頃から、皆の心がひとつにまとまりだし、ようやくミサ・祝賀会まで無事終えることができました。100年史の出版まで、あと一息です。

喜びの声…復活祭に洗礼を受けて

今年も復活祭に洗礼の恵みを受け、信仰の道を歩みだした方々が多数おられます。

カテドラル元寺小路教会では、復活徹夜祭に29人の方が平賀司教から洗礼を受けました。その喜びの声を紹介します。

渡辺 秀己（西仙台）

このたびは、皆様の祝福をいただき誠にありがとうございます。私は子供2人とともに洗礼を受けることができました。式の荘厳さと多くの方からの祝福に深い感銘を受け、その感激を静かにかみ締めながら日々を過ごしています。



きとても感謝しています。日々の生活の中で、日曜日の朝ぐらいはすべてを忘れて「神様のこと」について考えることも大切なことだと思っています。そして、子供にとっても多くの大人との交わりの中で、社会について経験を深めてもらいたいと思っています。キリスト教についてはまだまだ知らないことも多いので、長い時間をかけて少しずつ学んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、一年間面倒を見ていただいたSr.梅津、子供たちを導いてくださったドミニコ小学校のSr.箭内、安藤校長先生、その他多くの方々に心から感謝いたします。今後とも引き続きお導きをお願い致します。

宮下 玲子（畳屋丁）

初めて御ミサにあずかったのは、短歌の大会があつて訪れた長崎の浦上天主堂、朝6時の御ミサでした。半分は観光気分でしたが、不思議な安らぎを得た感覚があり、自分の計り知れないところで見ていくださる神様の存在を感じました。もっとお祈りして神

西仙台教会は建物に趣きがあつて、どこか懐かしい雰囲気があり心が落ち着きます。また、信者の方々からは親切にしていただ

様になつてみたいと思いました。案内してくださった信愛修道会のシスターが、「仙台にもカトリックの教会がありますからぜひ訪ねて、私のようにシスターがいますからいろいろ聞いてみてください」と教えてくださいました。仙台に帰ってみると、家から歩いて10分のところに畳屋丁教会があり、聖ウルスラ会のSr.小川がたたか声をかけてくださいました。聖パウロ女子修道会のSr.長谷川の入門講座では、カトリックについての知識や情報はもちろん、キリスト者としてどのように生き、考えればよいのか、さまざまな角度から示唆を与えていただきました。6月に出産を控えており、しばらく教会に行けないのが残念ですが、洗礼のおめぐみをいただきましたので、安心して感謝して出産の日を迎えたいと思っています。

阿部 賢一（東仙台）

昨年5月17日、「聖書勉強会に出てみたら？」の妻のひと言により、私は軽い気持ちで東仙台教会を訪れた。講師はシスターで、マルコ福音書を軸にイエス時代のパレスチナの人々の暮らしなどを興味深く話された。そのとき私は、無意識のうちに、イエスの生涯を辿っていたのかも知れない。それから聖書はもとより、イエスの生涯に関する本を読み、映画「マリア」を観に行くなどしてい

た。そして11月半ば、受洗の勧めがあつた時には、素直に洗礼を受ける気持ちになつていった。

これより少し前の、9月中旬頃、またもや妻から一言。「一人で行ってきたら？」の誘い水にのり、今年の2月、10日間、「ガリラヤ、エルサレム巡礼の旅」に参加し、イエスが歩かれた道を通ることができた。このことが入信への思いをより強くしてくれた。

まだ信仰の入り口に立つたばかりの老いたる迷える羊ですが、教会という共同体の一員として、主イエスと共に、そして皆さんと共に一日一日を大切に過ごしていきたいと願っています。

人権を考える委員会活動状況報告

「人権を考える委員会」の2007年度後半の活動状況をお伝えします。

■ハンセン病に関する仙台シンポジウム

11月3日に元寺小路教会大聖堂において日本カトリック部落問題委員会（委員長 平賀徹夫司教）との共催でシンポジウム「ハンセン病とキリスト教の隔離から解放へ」を開催しました。（詳細は教区報179号に掲載）107名の参加があり、参加者からは「今まで知っていた」と思っていたことが、実は

何も知らないことだったということを知った。知らないことが、実は、次の加害者になりうるということがとても強く意識の中に残った。「差別をした時代に生きた者として反省大である。無関心の罪を思った。とてもよい学びの機会を与えられ感謝。」などの感想が寄せられました。ハンセン病問題について、人権について学ぶよい機会となりました。委員会では、現在、記録集を作成中です。

■委員会の今後のテーマについて
昨年のシンポジウム開催準備にあたってハンセン病問題についての学習を行う中で委員会としましては、この問題はまさに「信仰者にとって人権とは何か」を考えるにふさわしいテーマであると考えました。今後、各種資料の読み合わせなどを続け、教区全体にこの問題についての発信をしていきます。

■外国人ヘルプデスクの対応状況
（07年8月～08年3月まで）

【国籍】フィリピン（2） 中国（2）

【性別】女性（4） 男性（0）

【相談内容】DV（1） 就労（1） 養育（1） 生活費（1） 【結果】他機関紹介（2） 継続（2）

相談は、月曜日～土曜日9時～18時
電話 080・1855・5149

FAX 022・222・7378

対応言語 日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語、韓国語、タガログ語
（園部英俊）

日本列島縦断1700キロ! NWM in 鹿児島への旅

つている。
(塩竈教会・三島文明)

2月9日から11日、NWM(ネットワークミーティング) in 鹿児島が開催されました。

仙台から参加しようにも鹿児島

の地は遠く、交通費もバカになりません。ならばいつそのこと、仙台から鹿児島までの全9教区(仙台↓新潟↓名古屋↓京都↓大阪↓広島↓福岡↓大分↓鹿児島)を車で行って、仙台の心意気を全国に示してやろう!と集まった5名の青年と教区青年担当の舟山神父。日本列島縦断1700キロ! NWM in 鹿児島への旅が始まりました。

(二本杉教会・御供真人)

【NWM in 鹿児島を通して】

それは初めて出会う他人であるはずだった。しかし目の前には、どこかで出会ったことのあるような仲間がたくさんいた。不思議な感覚の連続。それが、私が初めて参加したNWMの率直な感想である。

生活する環境や場所が異なっても、神さまのもとでは、ひとつの強い絆で結ばれているのだ! そのことに気付かされ、出会うことを通して、神さまを見ることができた3日間だった。

来年2月〜3月には、仙台でもNWMを開催する。これをきつかけにして、たくさん仲間たちに、この素晴らしさを伝えていきたいと思



私は、今回初めてNWMに参加しました。全国の教区から若者達が集い、最初は緊張きみでしたが、談笑したり分かち合っていくうちに、最後は仲間と呼べるものになっていました。2日目のタミサでは、参加者およそ100名がローソクを持ち、ローソクの光の中でミサを行いました。あつという間の2日間でしたが、ネットワークミーティングで得たものは大きかったです。次回も絶対参加したいと思いました。

(北仙台教会・道又譲)

NWMって一体なんだ? そんな疑問を仙台を発する直前まで持ちつつも参加したNWM in 鹿児島実際に参加してみると、いかに自分が井の中の蛙だったかということに気付かされました。私は仙台教区の青年会の活動に参加し、中高生会のリーダーとして教会と関わってきましたが、今までは他教区の活動に参加するということはほとんどなかったのです。しかし、今回のNWMで教区紹介や分かち合い、交流会を通して、私よりはるかに忙しいであろう社会人や同じ世代の人が青年会、教区を盛り上げようと、様々な活動を積極的に企画していることがわかりました。そのことは私にとってよい刺激となり、仙台教

区ももっとたくさんの人と集うことができるはずだ! という、自信に繋がりました。

鹿児島に行き、そこでたくさんの人と出会い、同じ食卓を囲み、共に祈り、三日間とは思えないほど内容が充実していました。この思いをもっとたくさんの人に味わって欲しいと思います!!

(北仙台教会・佐藤 紫乃)

故 三浦平三神父遺稿集

発行について

昨年3月22日に三浦平三神父様が帰天されて一年が過ぎました。居住されていた「あけの星荘」の職員宿舎から「群山」や「新アララギ」へ投稿された歌の一部が見つかりました。社会福祉法人カトリック児童福祉社会役員の方々と在仙修道女会の協力をいただき遺稿集を出版しました。

ご希望の方は、郵便振替払込(口座番号2210-9-40524加入者名「社会福祉法人カトリック児童福祉社会」と通信欄に「三浦平三神父遺稿集希望」と必要部数)を記載し、代金をお振込みください。郵便振替受払通知票を受領後、宅急便にてお送りいたします。

なお、遺稿集頒布価格は、一冊1500円+送料250円です。社会福祉法人

カトリック児童福祉社会

法人本部事務局

Tel 022-299-3731

新刊案内

『日常で神とひびく 2』

著者 柳田 敏洋/発行 ドン・ボスコ社/定価 1400円+税
月刊誌「カトリック生活」に連載されていたものを、『日常で神とひびく』にまとめられました。本書はそれに続くものです。前書に続き、本書も、身体と精神の深い結びつきを、著者の体験を通してわかりやすく語ります。

私たちは、自分自身だけでなく、周囲を見回しても、納得できないことだらけです。そのような不条理な出来事を、「神が人となられた」という神秘から説明しています。キリスト教に入る前に耳にしていた仏教的な知識も踏まえながらの説明は、すんなり心に入っていくことでしょう。

第2章では、著者自身の「ヴィパッサナ」という瞑想体験を語り、第3章では、気づきのエクササイズを具体的に教えています。「息への気づきのエクササイズ」「疲れに気づき、味わうエクササイズ」「体を感じる気づきのエクササイズ」「いやな音の気づきのエクササイズ」「怒りを見つめるエクササイズ」を実際に体験することによって、いろいろなものから解放されることでしよう。第4章では日本の霊性への気づきについて述べ、5章では霊的な心の動きの見分け方について述べています。

本書は、単なる霊性の本ではなく、実際のエクササイズによって、それを体験しながら自分で深めていくことができるように導いている書ということができるようでしょう。

活動紹介

「地球を大事にする会」

創世記にあるように、神はこの創造された世界すべてを「よし」とされました。そして、ご自分のかたちに人間を創造し、「産めよ、ふえよ、地に満ちよ」、「すべてのものをあなたたちの手にゆだねる」と言われました。このように人間に任された地球が、人間の生産・消費活動の拡大に起因する環境変化により危機を迎えています。



特に地球の歴史の中で何十億年もか

私の気分転換

東仙台教会 赤井悠蔵

普段は、好きな音楽を聴きながらくつろぐ、といったことでリラックス出来るのですが、ストレスが溜まってどうしようもない時には、思い切って、外に出て、緑が多い場所を自転車で走り回るようにしています。気分転換が必要な時というのは、体が疲れている場合よりも、デスクワーク続きで精神的に疲れている場合が多いので、体いっぱい

けて生成された石油資源を数十年で使い尽くそうとしており、その結果炭酸ガスが急激に増加し温暖化の原因となっています。

人間に任されたこの地球を守り育てるにはどうしたら良いかを考えるために、「地球を大事にする会」は発足しました。活動方針としては、

①地球環境の歴史と現状、変化の原因を知ること。
②地域による経済的格差(南北問題)を知ること。

③私たちが今すぐに実行できることは何かを話し合うこと。の3点です。まだスタートしたばかりで、参加者の意見交換が中心です。カトリック西仙台教

に自然を感じるのですが、何よりの癒しになるのです。春なら桜、秋なら稲穂等、その時期に最も美しい草木が見える場所に行き、心地よい風を肌を受けると、この瞬間のためだけでも生きていて良かったと思えるほどの幸せを感じます。身の回りにある自然のささやかな、けれども例えようもない美しさに触れた時、それが、私にとつて、神様の存在を最も身近に感じられる時でもあります。



会にて2ヶ月に1回開催しておりますので、どうぞ皆さまご参加ください。(代表 猪岡光) TEL・FAX 022-265-4633

E-mail inooka@kud.biglobe.ne.jp

日本カトリック女性団体連盟 『第34回仙台総会』 開催に向けて

あけの星会準備委員

阿部 利枝

全国の日カ連会員が集う第34回仙台総会が、5月20日(火)カテドラル元寺小路教会を会場に開かれます。日カ連本部と連携し、仙塩地区8教会の役員が粛々と準備を進めてまいりました。北は札幌、南は沖縄はじめ全国各地から司祭を含め105名、お迎えする仙台は150名の参加となりました。左記日程で総会・懇親会・広瀬川殉教地巡礼・記念講演・派遣ミサなどが組まれています。

21日(水)の午後3時からの派遣ミサへのご参加に余裕がありますので、ご希望の方は至急各教会のあけの星役員にお申し込みください。皆様のご協力に心から感謝申し上げます。

日程

5月20日(火)
15時30分～日カ連仙台総会
18時～懇親会(パレス平安)

5月21日(水)

9時～広瀬川殉教地巡礼(徒歩)
11時15分～基調講演(大聖堂) 講師 平賀徹夫仙台教区司教
テーマ「家庭は召命の苗床」
殉教者の信仰の証に生きる
12時30分～昼食・分かち合い
15時～派遣ミサ 主司式 平賀司教
16時30分～エクスカーション 松島へ

第24回日本カトリック医療関連学生セミナーのご案内

2008年8月29日(金)、30日(土)、31日(日)の3日間にわたり、第24回日本カトリック医療関連学生セミナーが開催されます。メインテーマを「病める人との対話を学ぶ」とし、病める人との対話に際して必要な、人間としての心の豊かさや人の心を理解する感性を、醸成し磨くことが目的です。

がん、認知症、ハンセン病の各専門分野における医師や看護師、または著名人による講演とシンポジウムが行われる他、セミナー参加者による分かち合いもあります。

セミナーの会場は、1日目が仙台白百合女子大学、2日目が北杜学園です。最終日は、カトリック元寺小路教会にてミサ

が行われ、その後学生による総合討論が行われます。

第24回セミナーでは、病める人にも、医療や福祉に携わる人にも満足される対話の基本を、少しでも学んでほしいと願っており、医療関連の学生に限らず、広く一般の方の参加も募っています。

多数の方々に参加されるように希望いたします。

へ問い合わせ連絡先

〒980-0021

仙台市青葉区中央1-6-25

早坂歯科医院内

日本カトリック医師会仙台支部

電話022-265-5784

計報



マルセル・ポリケン 神父(ケベック外国宣教会) 4月17日、

カナダのラヴァルで帰天。78歳葬儀ミサは4月23日午後2時(現地時間)よりケベック会本部にてさげられました。

また、4月26日午前11時より十和田教会にて追悼ミサが執り行われました。



スール・マリア・エメリンシア中島恭子 O.P. (聖ドミニコ女子修道会 青野木修道院)

3月6日午後2時15分腎がんのため帰天。79歳。立誓願後44年目。教育分野で長年使徒職に携わる。